

北山城跡 第2次 (No.9)

3区の調査概要について



3区的全景

北山城跡の発掘調査は4つの調査区に分けて進めています。現在は、丘の上の1区と斜面下の3区を同時に調査しています。これまでは1区の様子をおもにお知らせしてきましたが、今回は3区の発掘調査の様子をご紹介します。



S K263 と石組み

3区は1区に比べると、斜面ということもあり、遺構はあまり多く見つかっていません。今回は数少ない遺構の中から、SK263 と名付けた^{ところ}土坑(大きめの穴)をご紹介します。

SK263 は、検出時には黒っぽい土で埋まっていた。その土をていねいに取り除いていくと、底から石が見つかりました。石は並べられているようにも、組み合わせられているようにも見えます。今のところ、この石の意味はよく分かりません。一緒に出土した土器から、この穴が平安時代に掘られたものであることが分かりました。当初はお墓ではないかと考えましたが、決め手に欠けるため、今後、さらに検討をすすめていきたいと思っています。





平安時代の遺物

3区は遺物の数も1区に比べると非常に少ないのですが、1区など丘の上の調査区では見つかっていない、平安時代の遺物が出土しています。

左の写真は、SK261と名付けた土坑から出土した平安時代の土器（下が須恵器、上が灰釉陶器の椀）です。



灰釉陶器

左の写真は東員町の広山B遺跡で出土した灰釉陶器の椀です。北山城跡の調査で出土しているものより少し新しい時期のものですが、参考として、載せておきます。

灰釉陶器というのは、植物の灰を主成分とした^{うわぐすり}釉をかけて、高温で焼いた陶器です。平安時代に愛知県の^{きなげ}猿投

などで多く作られました。

今のところ、3区でも城に関連する遺構・遺物は見つかっていません。北山城は丘陵の先端部の地形を巧みに取り入れて築かれています。斜面の下半はあまり手を加える必要はなかったのかも知れません。

今後の調査の進展にご期待ください。

【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1

電話番号:059-363-3195/ファックス:059-363-3196

E-mail: maibun@pref.mie.jp

担当: 勝山孝文・矢田陽・宮原佑治